

すげがさ 菅笠、さらい、傘

菅笠

竹で作った骨に植物の菅を縫い合わせた笠。伊勢神宮へのお伊勢参りが多かった明和町では、参宮客を相手にした商品が多く売られました。

旧明星村の記録では、年間で明治7年(1874)に約37万個、大正8年(1919)には約26万個が生産されていたそうです。明治頃の新聞記事によると、斎宮村の約2割の家が菅笠作りに携わっていたとあり明和町全体で盛んに作られていました。中でも、最も盛んだったのは養村でした。



傘に関わる街道沿いの屋号

竹川：田所伝右衛門商店

牛葉：カサヤ

新茶屋：カサヤ

さらい

竹で作られた木の葉やごみなどを集めるための道具。農閑期を利用して作られ、本郷では20軒もの家で製作されていました。製作が盛んだった昭和40年(1965)代中頃までは、家族で分業して1日に70～80本を製作していました。

傘

現在使われている洋傘が一般化する以前の昭和10年(1935)代前半までは、和傘が雨具の主流でした。特に伊勢地域で作られる番傘は丈夫で、参宮客の旅館の備え傘や参宮土産として人気がありました。

明和町では傘の骨組製作を副業とする農家が多く、上野地区に多かったといいます。

傘に関わる街道沿いの屋号

明星：ブンジャ、藤七屋、セイガンヤ、ケジャ、ニヘエヤ、デンヤ、



キーワード：伝統産業、伊勢街道、参宮客、菅笠、さらい、傘